

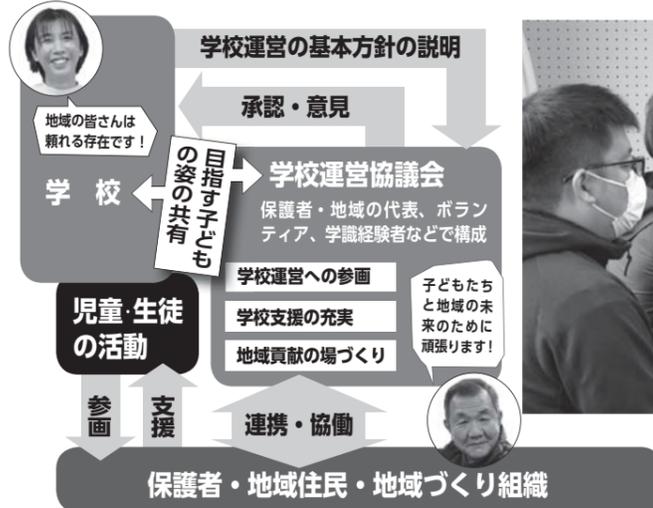


教科書にはない「生きた学習」を

子どもたちは、自分たちが地域で取り組みたいことを考え、地域の人と一緒に「実現」に向けて活動していく。まさに、教科書では学ぶことができない「生きた学習」です。

学校運営協議会を通じて、民生委員児童委員、学校ボランティア、老人クラブなど、地域のいろいろな立場の人と「目指す子どもの姿」を共有しながらともに活動できるので、学習の幅もぐんと広がっていきます。

つじが丘小学校 校長 上谷 典秀



学校・保護者・地域の代表が、学校の運営などを話し合うために設置される「学校運営協議会」。つじが丘小学校・南中学校では、つじが丘・春日丘自治協議会の中にある「子ども育成委員会」とも連携し、学校の課題や「目指す子どもの姿」などについて話し合い、互いの立場でできることを考えています。



進んでいます！「コミュニティ・スクール」の取組 地域の温もり感じる学校へ

「子どもたちのために何ができるか」を地域全体で考え、実現していく。その過程の中で、子どもの「生きる力」を育み、地域の未来をも切り拓いていく。それが「コミュニティ・スクール」の取組です。

令和2年度には、市内全ての小中学校が「コミュニティ・スクール」となり、その活動は充実してきました。今号では、市内初の「コミュニティ・スクール」となった南中学校区の、地域貢献の取組の一つを紹介します。

図 教育総務室 63・7849

市内初となる南中学校区「コミュニティ・スクール」の取組

学習支援や学校美化、安全確保支援など、これまでも地域の皆さんに学校を支援いただけてきましたが、「コミュニティ・スクール」は、学校の教育方針や目標に向けて、地域住民が積極的にかかわる新しい仕組み。市内全ての小中学校には、教職員、保護者、地域住民などが思いを共有する場「学校運営協議会」が設置されています。

市内初の「コミュニティ・スクール」となったのは、南中学校区(つじが丘小学校・南中学校)平成29年4月のことでした。南中学校区では小中一貫教育を実施していることから、「学校運営協議会」も一本化。また、平成30年には、子どもたちが自分たちの地域に誇りを持って語れることを目標に、生徒らと地域の代表が話し合う「つじが丘子会議」が発足しま

小学生考案の「お弁当」がスーパーで販売された！

昨年3月、つじが丘小学校の近くのスーパーで、子どもたちが考案したお弁当が販売されました。その名も「えみらる風弁当」。このお弁当もまた、「コミュニティ・スクール」の取組から生まれたものです。

つじが丘小学校の6年生は、家庭科の授業で「弁当」について学びますが、コロナ禍で調理実習が中止に。子どもたちからは、「調理実習の代わりに、新型コロナの

感染が広がる中、地域の方が元気になるような何かがあれば」といった提案がありました。

子どもたちが、授業でお弁当メニューのアイデアを考え、「コミュニティ・スクール」の取組として、そのお弁当を地元のスーパーで売り出すことができれば。栄養教諭の北中先生はそう考えました。早速、「学校運営協議会」で、「コロナに負けず元気で笑顔になろうプロジェクト」として取り上げられ、6年生が考えたお弁当のアイデアを聞いてもらおうと、学校の近くのスーパーに協力を打診。快く協力いただけることとなり、さらには、スーパーの総菜担当者によって、弁当のメニューを考えるうえで必要となる原価計算や色合い、人気の具材などについての授業も行われました。

子どもたちは、栄養バランスにこだわった「コロナに負けない弁当」や、名産産物のいちごや野菜などを取り入れた地産地消弁当などアイデアを出し、地域の人やスーパーの担当者の前で、そのアイデアを発表。コストなどを考慮して、「えみらる風弁当」が誕生しました。包装紙には「コロナに打ち勝つ」などのメッセージも添え、昨年3月、実際にスーパーで売り出されることになりました。

一日限定15食、合計110食。そんな販売目標を掲げ、迎えた弁当販売日。弁当が売れるかどうか、子どもたちは不安だったそう。しかし、店頭には長蛇の列！あっという間に完売し、300食の追加注文が舞い込みます。子どもたちは、追加注文に驚き、喜びながら、

率先してお弁当の包装紙にメッセージを書き込んでいきました。未来を生きる子どもたちが、少子高齢化、グローバル化、デジタル社会など激しい社会の変化に対応していくためにも、子どもたちの自ら学び考え行動する「生きる力」はますます重要となっており、「コミュニティ・スクール」の取組により、学校の中だけではなく、地域社会を舞台に子どもたちが活動することで地域に誇りを持ち、地域の人の温かさに触れる中で、「生きる力」も育まれているのです。

学校を核とした地域づくりに子どもたちの力を！

昨年12月、つじが丘小学校で6年生と地域づくり組織との懇談会が開かれ、交通安全やごみ問題、空き家対策などについて話し合われました。児童は地域の課題を調べ、ごみ拾いイベントの実施や「えみらる」をデザインした交通安全対策の反射材を作ることなどを提案。行政への要望や自治会での取組などが検討されることとなりました。

他の地域においても、子どもたちが、ひとり暮らしの高齢者に向けて、「コロナ禍と一緒に乗り越えよう」と、メッセージやプレゼントを作成して届けたり、「地域コミュニティの輪を広げる標語」を考えたり、支援する側として防災訓練に参加したりと、「地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)」の充実に向けた取組が始まっています。

自分たちが取り組んだ成果が目に見えて現れる。そんな貴重な経験が自信に！



これまで手を挙げて発言しようとしなかった子が、地域の人たちとの学習や発表の場では、積極的に自分の考えを発表し始めたんです。これには驚かされましたね。子どもたちの提案に対して、地域の方が、実現に向けて取り組んでいこうと真剣に話を聞いてくれるので、すごくやりがいを感じているんだと思います。

お弁当の販売をはじめ、自分たちが地域で取り組んだ活動が成果として見えることで、「やればできるんだ」という子どもたちの自信になっている。地域ぐるみのこうした取組が、「生きる力」を育てていくことにもつながっていくはず。

つじが丘小学校 栄養教諭 北中 一校

子どもたちが「地域のために」って、やる気になってくれるから、私らも燃えてくる！



お弁当を作って売りたいと聞いた時は、「売れるかな」と心配していましたが、地域の皆さんが、子どもたちの思いに賛同して、たくさん購入してくれました。

子どもたちは、一生懸命に地域の課題を調べ、「交通安全を呼びかける看板を作りたい」「空き家や空き地を有効利用できないか」などと提案してくれました。子どもたちも、地域のために力を発揮してくれる一員であり担い手。私たちも一緒になって実現できないか考えます。子ども目線だからこそ気付けることもありますね。

それに、子どもたちの目は真剣そのもの。「地域のために」とやる気になってくれるから、私たちも自然と燃えてくるんです。

つじが丘・春日丘自治協議会 理事 片山 梨二さん

「コミュニティ・スクール」の取組で、子どもたちの地域への思いが詰まった心温まるお弁当が誕生！



昨年3月に、団地内のスーパーで売り出された地域のゆるキャラがデザインされた子どもたち考案のお弁当。エビフライやからあげなど、子どもたちの好物がぎっしり詰まっていて、卒業生が菓子店とコラボして作ったきな粉入り「かたやき」も入っています！

ラベルには児童一人ひとりによる「コロナにうち勝て!!」などの手書きのメッセージが添えられ、子どもたちの地域を思う気持ちも一緒に詰められています。



教職員にとって



- ▶地域の皆さんの理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になります。
- ▶地域の方の経験や知識・特技を学校教育に生かすことができます。
- ▶地域の協力により、子どもと向き合う時間が確保できます。

地域にとって



- ▶経験を生かした活動は、生き甲斐にもなります。
- ▶学校が社会的につながり、地域のよりどころになります。
- ▶学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域課題の解決につながります。

コミュニティ・スクールの効果



保護者や地域住民が、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人にさまざまな効果が広がっていきます。

子どもたちにとって



- ▶子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- ▶自分に自信が持てたり、人を思いやる心が育まれます。
- ▶地域の担い手としての自覚が高まります。
- ▶地域の人と顔の見える関係を築くことで、防災・防犯につながります。

保護者にとって



- ▶学校や地域に対する理解が深まり、家庭での教育にも良い効果が生まれます。
- ▶地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- ▶保護者同士や地域の人との人間関係が築けます。

地域と子どもたちとの温かいつながりは名張だからこそ！ 今後の「コミュニティ・スクール」の取組に期待しています



「学校と地域の懸け橋になりたい」との思いで、昨年4月に地域おこし協力隊(薦原地区担当)として着任。情報発信などに取り組んでいます。

初めて薦原小学校を訪ねた時のことです。「今日は何しに来たん?」「名前はなんていうの?」って、児童が積極的に話

地域おこし協力隊 長谷川 未紗さん

2児の母。昨年、名張に移住し、地域おこし協力隊員としてSNSや手作りの広報紙などで、小学校や保育所・地域の行事など、薦原地域の情報を中心に発信しています。東京では、中学校の教員を務めていました。

しかけてきてくれました。東京では、『どんな人がいるかわからないから知らない人に声をかけないように』って教えていましたから、すごく驚きました。

移住して感じた名張の魅力は、地域の方が、親戚のおじちゃんやおばちゃんみたいに、子どもたちに接してくれる温かさ。学校が所有・管理する「学校林」での自然学習にも参加していますが、遊具の整備や維持管理なども含め、学校ボランティアの協力があってこそこの活動だと言えます。

こうした土地柄だからこそ、「コミュニティ・スクール」の取組は、これからもっと進化していくのではないかと期待しています。親としても積極的にかかわっていききたいですね。

令和4年度から

小中学校の夏休みを短縮し、土曜授業を廃止します

授業時間確保のために、令和4年度から、小中学校の夏季休業日を3日間短縮します(7月21日～8月28日)。

これに伴い、小中学校の土曜授業(令和3年度は4回実施)のあり方については、PTA・教職員などの各代表者・教育委員会関係者らで構成する「土曜授業検討委員会」で検討を重ねた結果、廃止することとしました。なお、防災訓練など、学校と地域とが一緒に行う行事は、振替授業として実施していきます。

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882



登下校時の見守りや除草、クラブ活動への支援など

「学校生活支援ボランティア」を随時募集しています

登下校時の見守りや校舎の補修・除草、学校図書館・クラブ活動・教科学習への支援など、地域の皆さんの経験や知識・特技などを学校教育に生かしていただく「学校生活支援ボランティア」を随時募集しています。地域ぐるみで子どもたちを育ていきましょう!

◎詳しくは、問合せ先へ

☎ 学校ボランティア室(教育センター内) ☎ 64-8864



「放課後児童クラブ」の補助員を募集(学生可)

放課後児童クラブで、宿題や遊びの見守り、読み聞かせなどの支援をしていただけませんか。

登録資格 18歳以上(高校生は除く)

登録方法 市販の履歴書に写真を貼り、郵送または市役所1階子ども家庭室(〒518-0492 鴻之台1-1)へ ◎詳しくは問合せ先へ

☎ 子ども家庭室 ☎ 63-7594



令和4年度 市内小中学校の「学生教育サポーター」募集

小中学校などで教育活動を支援いただける大学生を随時募集中です。自身の資質向上にも!

活動期間 下記の期間中の、決まった曜日

▼前期: 4月6日～9月30日

▼後期: 10月1日～令和5年3月25日

◎交通費など支給。詳しくは、問合せ先へ

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882